

竹田市 一人一台端末利活用計画

◎一人一台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

児童生徒の多様化（特別支援教育を受ける児童生徒や外国籍児童生徒の増加、貧困、いじめの重大事態、不登校児童生徒数の増加等）が進展する一方、教員不足等により学校教育を担う人材は限られている現状にある。

このような状況を踏まえ、児童生徒一人一人に応じた指導・支援の必要性が一層高まっている。

本市においては、一人一台端末をはじめとする ICT 環境を有効に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現することにより、児童生徒の成長の最大化を目指す。

◎GIGA スクール第 1 期の総括

令和 2 年度に児童生徒一人一台の端末環境を整備し、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休校や学級閉鎖時における学習保障、探究的な学習における資料作成、自己の意見形成・発表活動等に活用を進めてきた。

これにより、児童生徒の主体的な学びや情報活用能力の向上に一定の成果を見た一方で、端末スペックによる通信遅延、利用サービスの自治体間格差、教職員間における活用頻度の差、運用面での業務負担増加など、ハード・ソフト両面での課題も顕在化した。

今後は、これらの成果と課題を踏まえ、ICT 環境の最適化、教職員の ICT 活用指導力の向上、端末管理体制の充実等に取り組み、児童生徒の学びの質のさらなる向上及び持続可能な ICT 活用体制の確立を目指す。

◎一人一台端末の利活用方策

児童生徒一人一人に応じた「個別最適な学び」及び「協働的な学び」を推進するため、一人一台端末をはじめとする ICT 環境を効果的に活用していく。教員は、児童生徒の成長やつまずき、悩み等への理解に努め、個々の興味・関心・意欲を踏まえたきめ細かな指導・支援を行うとともに、児童生徒自身が自らの学習状況を把握し、主体的に学習を調整できるよう促していくことが求められる。このため、以下の取組を重点的に推進する。

○教育データに基づく児童生徒の実態把握及び、実態に応じた個別指導の推進（例：デジタルドリル等による学習支援）

○授業支援ツール等を活用した児童生徒同士の学び合いの促進

○授業における調べ学習、意見交換、発表活動等への端末活用の推進

○家庭学習における端末の活用による学びの継続性確保

○教職員の ICT 活用指導力向上を図るための研修の実施

○情報モラル教育及び健康面への配慮に関する指導の推進

○故障対応、端末管理体制の強化による安定した ICT 活用環境の確保

なお、教員不足等の課題に対応し、持続的に個別最適な学びを実現するためには、端末の整備・更新を着実に進め、児童生徒一人一人に対する ICT 環境を引き続き維持することが不可欠である。